

創傷ケアセンター

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

【創傷ケア委員会】

○中川 浩志(総合診療センター長、創傷ケアセンター長、総合診療部主任部長、形成外科・顎顔面外科主任部長);創傷ケア委員会委員長

○岡崎 秀規(皮膚科主任部長);創傷ケア委員会副委員長

<医局>

○松立 吉弘、石野 憲太郎、青野 哲哉

<看護部>

○越智 文子(副看護部長)、松本 和美(看護長)、久保 美千代、和田 理枝、河田 のぞみ、仙波 章子

<薬剤部>

○越智 啓介

<リハビリテーション部>

○武智 悠二、玉井 誠也

<栄養部>

○宮下 真結子

<事務局>

○山口 雅彦、中川 裕美

2. 認定資格取得(2025年3月時点)

資格名	資格取得者
日本褥瘡学会認定褥瘡医師	中川浩志
日本熱傷学会熱傷専門医	中川浩志
日本創傷外科学会専門医	中川浩志
日本看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師	久保美千代、和田理枝
日本フットケア・足病医学会認定師	和田理枝

3. 運営方針

当院における創傷(動脈性疾患による創傷、糖尿病性創傷、静脈疾患による創傷、褥瘡、熱傷、凍傷、手術創など)の予防対策と早期治療の達成を図ります。この創傷対策指針に従い、創傷発生予防に対する体制を確立し、多職種協働のもと質の高い医療の提供を目指していきます。

4. 実績

■ 当院の褥瘡・MDRPU データ

	2018	2020	2022	2023	2024	参考※
褥瘡推定発生率	0.30%	0.30%	0.30%	0.78%	1.00%	1.15%
褥瘡有病率	1.60%	1.40%	1.40%	1.88%	2.80%	2.37%
MDRPU推定発生率	0.90%	0.40%	0.50%	0.70%	0.60%	0.30%

※日本褥瘡学会算出:一般病院(2021年)

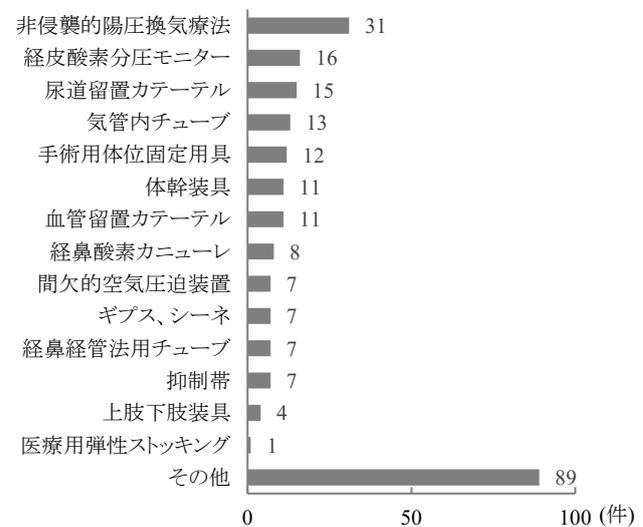
2024年1月~12月の褥瘡リスク患者数は2,136名、そのうち褥瘡を保有していたのは349名、医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)は170名でした。褥瘡発生患者は161名(237件)、MDRPU発生は148名(241件)でした。

当院の自重による褥瘡発生部位としては、尾骨部103件、仙骨部31件、踵25件でした。d1、d2の『浅い褥瘡』発生が205件(87%)と大半を占め、早期に発見、介入に繋げることができています。

2024年度の取り組みは、尾骨の褥瘡を減少させるために、発生要因を分析し、要因に応じた教育をしました。その結果、体圧分散寝具の選択76%(R5年45%)となりました。褥瘡発生時の背景をみると周術期発生が39%(R5年47%)、終末期発生が3%(R5年33%)、d2の治癒率が9.1日(R5年16日)となりました。当院の尾骨部発生には周術期にターゲットをおくことが明らかとなりましたので、2025年度も教育を継続し、発生率の低下に繋がります。

また、褥瘡対策診療計画書の正確な入力ができるようRPAを活用した取り組みを継続しました。その結果、褥瘡対策診療計画書の入力不備は減少しました。

■ MDRPU 発生理由

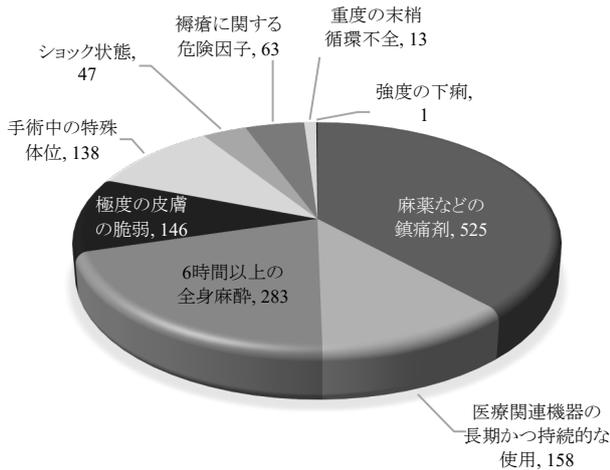


■ 褥瘡保有者数・ハイリスク数

①褥瘡リスクアセスメント実施数	1,311件
②褥瘡保有者	375名
③②のうち院内発生の褥瘡を有する患者数	174名
④②のうち真皮を超える褥瘡(III度以上)を有する患者数	100名
⑤④のうち院内発生の患者数	22名
⑦ハイリスク患者特定数	726名
⑧院内ハイリスク患者の褥瘡発生数(院外)	7名
⑨院内ハイリスク患者の褥瘡発生数(院内)	27名
⑩ハイリスクラウンド件数	1,991名

※褥瘡発生件数にMDRPUを含む

■ 褥瘡のハイリスク項目別件数



ハイリスクでの褥瘡発生は、褥瘡が 27 名、MDRPU が 5 名でした。褥瘡発生は、麻薬など持続鎮静剤を持続的に使用した患者のうち、95%が OP 室、クリティカル領域でした。補助循環挿入患者、ショック状態患者の増加などが背景の一つであると考えられました。

■ 創傷対策チームによる褥瘡・ハイリスク回診実施数

	2020	2021	2022	2023	2024
実施数	190	193	216	124	124

■ 創傷発生時のカンファレンス実施率

	2020	2021	2022	2023	2024
実施率	79%	81%	80%	83%	84%

創傷発生時のカンファレンス実施率は 84%で、今後もテンプレートを活用し、カンファレンス内容を記録に残し早期治癒と予防ケアに繋げることができるように指導していきます。

5. 2025 年度目標

- (1) 褥瘡推定発生率と医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)推定発生率 0.9%以下を維持します。
- (2) 創傷ケアリンクスタッフと褥瘡専任看護師の教育の強化

創傷ケアリンクスタッフ、専任看護師としての基本的な創傷ケアの知識・技術を習得し、レベルアップを図り、自部署で指導ができる実践的な役割の中核となるリンクスタッフを育成します。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 泉美千代、椿雅光、中川浩志、佐々木宗明、成川貴也、曾我健太. 業務の効率化と自動化を目指した DX(Digital Transformation)の活用－褥瘡対策診療計画書の入力不備への取り組み. 第 44 回医療情報学連合大会. 福岡 (2024.11.21-24)